

JR 西日本 323 系電車

～新たな大阪の主役～



野田駅に進入する内回りの 323 系 LS02 編成

1.はじめに

大阪環状線と言われると、オレンジ色の 103 系や 201 系を思い浮かべますが、それはもう古いのかもかもしれません。昨今大阪環状線改造計画が始動しましたが、その目玉とも言えるのが長らく活躍してきた 103 系性能の電車に代わる完全新製車の導入でした。そこで導入されたのが JR 西日本 323 系です。今回は、この 323 系について書かせていただきます。

2.車両

車体はステンレス製で、全長 20000mm、全幅 2950mm、全高 4085mm です。軽量ボルスタレス軸梁式台車を装着し、主電動機は WMT107 で出力は 200KW 以上です。制御装置はフル sic 素子 VVVF インバーターで、電気指令式の制動装置を装備しています。車両定員はクモハ 323 で 140 名、322 で 139 名、中間車で 153 名です。前面は 521 系 3 次車から続くおなじみのものですが、フォグランプはラインカ

ラーのオレンジで、ラインデザインも細部まで凝ったものになっています。行先表示は、一画面のフルカラーLED表示です。運転台はJRの伝統と言っても過言ではない2ハンドルデスクタイプ(なぜ1ハンドルにしないのか疑問)です。

軽量ボルスタレス軸梁台車

(写真は225系のもの)



フルカラーLED 行先表示

2ハンドルデスクタイプ運転台

内装は3扉に3+4+3の10人掛けロングシートです。座席には東日本の通勤電車でよく見る1人分広さのくぼみがあり、1人で2人分の席を取るのを防いでいます。車端部の3人掛け座席は背ズリが短く、座り心地があまりよくないような気がします。また変わっているのが袖仕切りで、大型化されるとともに、3扉化による乗降時間の増加を抑える為、通路側に斜めに設置されていて、その時に生まれる空間を肘掛けに利用しています。座席の仕切りには4本のスタンションポールが設置されていて、つり革だけではまかないきることができない立っている乗客の安全性を確保しています。そしてドアの上や天井には液晶ディスプレイが設置され、特にドア上のディスプレイは座った人が見やすいようになっており、デザインもブラックでキリッときまっています。優先座席を有する区画では、つり革や座席のモケットに模様を入れて他との差別化をはかっています。仕切り扉には最近の車両によくあるアシストレバーが装着されています。照明は蛍光灯タイプのLEDですが、女性専用車両は暖色系の色調です。またドアの横には乗客が自分でドアを開閉できる自動ドア開閉ボタンが設置されています。窓は225系のものと同じく戸袋横は小面

積、中央は大面積になっています。唯一違うのはロングシートなので中央の窓の日よけがレールを挟まない1枚ものになっていることです。



ドア開閉ボタン



模様の入った優先座席



ロングシート



液晶ディスプレイ

3.編成・運行

323系は、2016年12月24日に大阪環状線、桜島線に初めて投入されました。最初は1編成で運行していましたが、今は増備が進み、かなり増えてきました。JR西日本では2018年までに21編成を投入し、快速運用の列車を除く全ての列車をこの系統で統一する予定です。導入された12月24,25日には大阪環状線と桜島線で一部の電車が行先表示にクリスマスツリーのイラストを表示して運行しました。



クリスマスツリーを表示する行先表示
(友人より提供)

2017年7月12日現在323系は大阪環状線と桜島線で全8編成64両が活躍しています。車番はLSと0から8の数で表され、クリスマスツリーを表示して走ったのはLS01編成でした。

4.最後に

いかがでしたでしょうか。大阪環状線の前身である大阪鉄道が開通してから120年余り、その長い歴史の中で何度か車両の世代交代はあったものの、完全新製車が導入されることはありませんでした。そのことを考えても323系は画期的な車両だと言えます。利用客の多い路線の主力車両として少しでも安全で快適な車内環境を作るため、至る所に工夫がしてあります。皆さんも次に乗るときは、是非そういったところに注目してみてください。

5.参考文献

JR西日本323系 | 車内観察日記 - アメーバブログ
ameblo.jp/seventhheaven1992/entry-12237566975.html

近モリ323系編成表 - 関西編成表 wiki

kansaihenseihyo.wiki.fc2.com/wiki/近モリ323系編成表

写真は特記がなければ筆者撮影